

令和 3 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立境港総合技術高等学校
校 長 田中 宏明

評 価 日	令和 4 年 2 月 2 8 日 (月)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 ア 基本的生活習慣の確立 ⑦遅刻者が 10%減少し成果が上がっていて、評価できる。 ⑧学校への訪問時や下校時に多くの生徒が挨拶をしてくれ、自然と声が出ていて、評価できる。 ⑨分離令、静止礼については、できている生徒とできていない生徒が明確である。 イ 基礎学力の向上 ⑦マナトレや補習を充実して基礎学力の向上につなげるためには、各科、各教科の教員の連携が不可欠である。マナトレや補習は粘り強く継続して欲しい。 ⑧専門的資格取得は、生徒の講習への積極的参加、指導の充実により、合格率が上がり成果が出ている。今後も継続して欲しい。 ウ ふるさとキャリア教育の推進 ⑦1次応募内定率91%は健闘している。離職対応として生徒の適正を見極め、適性にあった企業、事業所を選択させ、社会に送り出して欲しい。 ⑧コロナ禍ではあったが、感染予防対策として工夫したインターンシップが実施されてよかった。 エ 地域との連携と情報発信 ⑦コロナ禍で感染予防対策を十分に行い、地域連携事業を積極的に行っており、地域貢献にも繋がっている。今後も継続して推進して欲しい。 ⑧コロナ禍ではあったが、実習、行事、各科の取り組み等がマスコミに取り上げられ、生徒の活躍が多く伝わってきて、生徒の生き活きとした表情が見られて嬉しかった。今後も更に充実させ、中学生の応募に反映して欲しい。		① 達成率等の数値を記載し達成状況をわかりやすく記載した。挨拶や規則を守ることは基本であるので引き続き粘り強く指導していく。 ② 生徒への意識・意欲の高揚及び粘り強い指導を継続していく。 オンライン授業と ITC を活用した授業改革の研究をする。 ③ 就職先でのミスマッチがないように、適性を見極めた指導や助言を行う。 コロナ禍ではあるが、工夫し各科の特徴を生かした地元・地域との交流を今後も継続・推進していく。 ④ 今後も地域との連携を更に深め、生徒の経験値を上げ、地域活動に貢献できる人材育成を図る。地域連携事業や実習等の広報を積極的に行い、生徒の活動を中学生やその保護者、教員に広く知ってもらい、志願者増加につなげる。

オ 業務改善の取り組み ㊦会議の時間短縮、学校業務の効率化が進み喜ばしいことであるが、情報の伝達は速やかに正確に行われるとよい。 ㊧部活動等の時間短縮で、生徒の活動に影響が出ないようにして欲しい。 ㊨長時間勤務者の解消について、時間外業務が月45時間以内、年360時間以内の目標値を、ほとんどの教員が達成している。 (2)説明・公表について ホームページに、自己評価表（最終）及び第2回学校関係者評価報告書を公表する。 2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について コロナ禍で、一部の事業が行われなかった。しかし、実施した事業については、鳥取県立学校版予防ガイドブック（新型コロナウイルス感染症）および鳥取県版イベントガイドラインに沿って実施し、感染予防対策を工夫しその取組の様子が、新聞やテレビでたくさん報道されている。実施できなかったものについては、リモート等を使用して交流をするなど、地域に根ざした専門高校として各事業を有効に活用し、地域の人材育成、活性化に大いに貢献して欲しい。 研修旅行が実施されなかったことは残念である。 3. 取組改善のための提言 (1) コロナ禍で、学校運営協議会が2回目書面での資料等の提示による意見となった。評価基準が作成され、評価の根拠がわかるようになりよかった。 (2) 企業や事業所との連携は有意義な取組であるので、「地域共生型高校」を特色とし、今後も継続してさらに深めながら充実した取組として欲しい。 (3) 生徒が好奇心を持ち、伸び伸びとした学校である。更に地域との交流を深め、活気あふれた校風を発信し続けて欲しい。	⑤ 時間外業務について、校務と校務外を確実に区別した実績報告を行い、状況把握に努める。 ① 学校運営協議会の会議を実施する。 ② コロナ禍で工夫した地域交流やリモート等を使用した交流をさらに工夫を重ね、安全に実施する。 ③ コロナ禍ではあるが、インターンシップや事業所見学を工夫をして行い、事前事後指導を含め経験値を上げ、職業観・勤労観を育成する。 ① 評価基準を更に評価しやすいように改善する。
---	---